

中部大学発『魅力ある授業づくり』作品コンクール — 山下興亜学長と受賞者との懇談会 —

3月18日、2号館2階中会議室で中部大学発『魅力ある授業づくり』作品コンクール授賞式が行われ、14人(15作品)が表彰された。引き続き、山下興亜学長を囲んで懇談会が行われた。進行は大学教育研究センター副センター長の杉井俊夫教授(都市建設工学科)。

作品コンクールに参加して

杉井 受賞された皆さん、おめでとうございます。これより山下学長を囲んで受賞者の皆さんと懇談会を始めたいと思います。今回の作品で伝えたかったこと、参加の動機、作品に対する思いなどをお話いただけます。では山崎さんからお願いします。

山崎 私が『魅力ある授業づくり』作品コンクールに応募したきっかけは、1年生の時に授業に対する価値について問いかけがあったからです。そのときは割と軽く受け取ったのですが、それから1年してこのコンクールの存在を知りました。その時のことを思い出し、自分で考えてみようと思い、この作品を書きました。

野村 私がこの作品で伝えたかったことは、私たち大学生は自ら学びに来ているので、受容者でいるだけではないという思いです。大学に来たからこそ学べること、大学でしか学べないことがあります。授業に出ないのなら、大学に来る必要はありません。大学に来て先生方からしか受けられない授業を受けて、自分の知識を深めたり、視野を広げていたり、そういったことが、社会に出る前に唯一最後に許されるのが大学だと思います。それを特に感じたのが工学基礎実験(現創造理工学実験)やPASEO(パセオ)です。それを伝えたくて、この小論文を書かせていただきました。

谷口 僕は先生だけでなく、学生の主張や意見が活発に飛び交う、ディベートのような活気ある授業があったらいいなと思って書かせていただきました。自分もやる気が出ますし、頭がフ

ル回転してとても楽しくなります。

村瀬 僕は今2年生です。2年生より3年生、4年生の方が少人数授業が多くなると思いますが、少ない人数で授業を進めていると、先生からも学生からも意見が出て、新しいことができるかと思ったので、この作品を作りました。

森本 私が作品を応募しようと思ったのは、大人数の授業だと、学生は黙ってただノートを取り、先生は講義しているだけ、そういう授業は少し寂しいかと思ったからです。せっかく直接先生から講義を聞いて、疑問に思ったことをどんどん言える場なのに。そういう授業を少しでも学生側から変えていきたい。学生からの発信力をまず高めていけば、今までの一方的な授業とはまた違ったものができると思い、それが私が好きな絵で表現してみました。

酒井 「これを覚えなさい」と言われて覚えるより、「これを覚えたい」という授業の方が受けていて楽しいと思ったので、『『学ぶべきこと』より『学びたいこと』の多い授業』と描かせていただきました。さらに普通のポスターよりも何かちょっとした驚きがあると面白いと思って、背景の赤い文字を見ると「学生」という字が浮かび上がるようにしました。これを提出する際、何も説明せずに出したのに、気付いていただいて大変うれしかったです。ありがとうございました。エッセーは、自分が授業を受けていても身に付いたかどうか分からず、友達や後輩に教えたりするうちに自覚することが多かったので、こういう作品を書かせていただきました。

原田 私は25歳で、実は正看護師の免許を持っています。土日は白衣を着て看護師の仕事をしています。いわば

学生と社会人のハーフです。保健看護学科では看護師の免許と保健師の免許とプラスアルファで養護教諭の免許が取れるのですが、免許を持っている私は「何で大学に来たの?」と先生方にもクラスメートにも聞かれます。それはこの歳になっても、仕事をしていてもずっと疑問があり、好奇心が強く高等教育の看護をもっと知りたいという強い思いがあり、中部大学に入学したのです。自宅も豊川市で通学にも時間がかかります。「遠くから何で?」「勉強していることは同じじゃないの?」と聞かれます。たしかに同じようなことをやっているのですが、大学の教育は質が違うし、基礎を知っているからこそ、どんどん上に行けます。たまたまこのコンクールのことを知り、自分の気持ちを整理するためにもこの作品を書きました。

曾我 これを書くにあたって、谷口さんが先ほども言われたように、授業の中にディベートをする場所がないという思いは僕も同じでした。特に専門科目ではその傾向が見られ、授業を受けていても、なかなか頭に入らず、ただ黒板の文字を見るだけに終わっています。それではせっかく大学に来ている意味はないと思い、この作品を書かせていただきました。

松本 私は自分の学科で、何かできることはないかと探していた時に、このコンクールの存在を知りました。その時学業以外で忙しかったため、自分の授業についての考えを見直すきっかけになると思い、応募しました。

日向 授業の長い時間、集中するのは大変だけど、聞いているだけだと貴重な時間が無駄になり、もったいないと

いう思いからこの作品を作りました。
長尾 書道の授業と思い込んで取った授業が違って「え？え？シラバスを確認すればよかった」ということがありました。履修申告当日のTora-Netは動作が重く、シラバスがじっくり読めなかったのです。それでもしっかり

見ておくべきでした。今後入ってくる1年生は後悔しないようにシラバスを見た方がいいと伝えたくて、これを描きました。

各務 魅力ある授業は学生が積極的に参加する授業だと思います。最初から学ぶことや問題を追究することが好き

な学生は人に言われるまでもなく、積極的に授業に参加します。学ぶことがそんなに好きでもなく、ただ大学に来ているだけの人が真面目に授業を受けるようになるきっかけはいろいろあると思います。例えば友達に勝ちたいとか、その中の一つのパターンを漫画で

中部大学長賞 山崎理史 (生命医科学科)

<小論文>

自己の積極性と購買力の集結

優秀賞

野村詩織 (都市建設工学科)

<小論文>

魅力ある
 授業づくりの為の、
 学生の在り方

優秀賞

酒井絵理香 (環境生物科学科)

<ポスター>



マンガ・イラスト部門賞

長尾明俊 (日本語日本文化学科)

<漫画>



優秀賞

谷口 駿 (都市建設工学科)

<俳句>

学生の
 主張が飛び交う
 講義室

優秀賞

原田大輔 (保健看護学科)

<エッセー>

中部大学で
 学ぶということ

学生審査員特別賞

各務恵子 (歴史地理学科)

<漫画>



優秀賞

村瀬雅弥 (国際関係学科)

<短歌>

お互いの
 独自の魅力
 持ち寄りて
 創り出される
 知性の泉

小論文・エッセー部門賞

曾我靖也 (機械工学科)

<小論文>

「学び」の行く末

教職員審査員特別賞

片岡翔真 (国際関係学科)

<俳句>

あら不思議
 席後ろでも
 筆進む

優秀賞

森本麻莉 (応用生物化学科)

<ポスター>



小論文・エッセー部門賞

松本理奈 (日本語日本文化学科)

<小論文>

将来において役立つ授業

教職員審査員特別賞

丹下真由美 (国際関係学科)

<イラスト>



優秀賞

酒井絵理香 (環境生物科学科)

<エッセー>

『魅力ある
 授業づくり』とは

俳句・短歌部門賞

日向 萌 (都市建設工学科)

<俳句>

九十分
 聴いてばかりじゃ
 ロスタイム

描けたらいいと思い、応募させていた
できました。

片岡 授業を前の方の席で受たい人も
いると思いますが、席が後ろになっ
てしまう人もいます。席は後ろでも、先生たちの魅力的な授業を聞
いて、いつのまにかベンが進むとい
うことを俳句で表現しました。

杉井 皆さんの意見を伺いましたが、
山下学長、いかがですか？

学長 私が今一番感心したのは、皆さ
んの切り口が全部違うことです。それ
が素晴らしいところじゃないかな。大
学で学ぶということは、自分のことを
どれだけ考えられるかです。皆さんの
発言を聞いていたら、みんな自分を見
つめているのです。他人を見つめて
いるのじゃないですよ。自分を見つめ
るところから全体が分かってくる。全
体を知ろうとする。漫画も俳句もエッ
セイも自分を見直すきっかけにしたの
だと思います。中部大学がどんな大学
かは自分で見なければいけない。人に
聞いても何にもならないのです。「私
はどんな人間ですか？」と人に聞いて
もあまり意味がありません。自分で自
分を見直す。いろいろな形で、いろい
ろな切り口で。素晴らしい！私はそれ
が一番重要だと思います。

杉井 なかなか振り返るきっかけがな
いのですからね。皆さん、しっかり振り返
りをされていると思います。

学長 『魅力ある授業づくり』をし
ましようと言いながら、本学で行われ
ている授業が全ての学生にとって画一的
に魅力があるものではないと自己認識
もしています。だからこそ、より魅力

ある授業をつくりましようと呼びかけ
をしているのです。作品コンクールも
授業をもっと魅力あるものにしまし
ようという呼びかけなのです。

学生の好奇心とサポート

杉井 先ほど原田さんも言われました
が、授業を好奇心を持って受けるのと
そうではないのとで何か違いはありま
すか？また全ての授業で好奇心を持た
ないといけないのでしょうか？

原田 やはり知りたいと思って授業に
出るのと、あまり興味がなくて出ると
では集中力がまったく違いま
すね。これ何だろうと思うと、あつ
という間の90分です。私は英語が苦手
ですが、英語が嫌だと思つて授業がす
ぐ長く感じられます。保健看護学科の
先生はすごく優しい先生ばかりで授業
が面白いです。授業という聞きっぱ
なしの一方通行という感じがするの
ですが、看護は双方向の授業です。看護
は実践の科学で、先生と一緒に身体を
動かします。先生と学生の距離が近く、
その結果、信頼関係ができています。
やはり知っている先生の授業は聞きた
いと思いますし、「やってみたらいいん
じゃない」と後押ししてもらえて、保健
看護学科ならではのと思っています。

野村 都市建設工学科でも、学生がこ
れをやりたいと言うと先生方がいろい
ろサポートして下さいます。この大
学で3年間過ごしてきて思うことは、
学生が主体的にやりたいと言えば、先
生方だけではなく、事務の方も積極的
にサポートして下さいます。ただそ
れを知っている学生が少ないのです。

それがすごく
もったいない
と思います。

学長 チャレ
ンジ・サイト
やボランティア
・NPOセン
ターに参加し
ている人はい

ますか？ああいうのは主体的ですね。
中部大学はこれがものすごく進んでい
ていいと思っています。

杉井 松本さんはボランティア・NPO
センターに入っていますね。

松本 災害対策プロジェクトで活動し
ています。

学長 伝統あるプロジェクトですね。
東北の被災地にも行ってきたのかな。
ところで、原田さんみたいに看護師
として実際に働いて、そのコミュニ
ティーに入ろうと思うと、これだけの
ことは知っていないといけないとい
うことがありますね。それが成長する大
きな力になるのかもしれない。教養課
程、本学でいう全学共通教育科目は直接
看護職には関係ないかもしれないけど。

原田 オペラなんて聞いたことがな
かったのですが、その講義を最初は単
位のために取りました。受けてみると
すごく楽しくて。患者さんと話す時
にもこういうところでつながっていく
んだと感じました。

杉井 さっきシラバスというのが長尾
さんからも出ましたが、山崎さんの作
品にもシラバスが出てきます。1年の
ころからシラバスは読まなければなら
ないと考えていましたか？

山崎 シラバスの存在は大学に入
って初めて知りました。「シラバスを見
るように」と先生から言われて、シラ
バスって何？から始まったのですが、
じっくり読むと、この講義ではこうい
うことをやるんだということが良く分
かります。専門科目以外で、自分は何
を学びたいのか考えてみました。今回
の作品では海外ではどうなんだろうと
考え、調べました。アメリカではこう
なんだ、じゃあ僕らももう少しシラバ
スについて考え直してもいいのかなと
思いました。

杉井 われわれも受講生に言っている
のですが、なかなかシラバスを読んで
もらえないことが多いようです。先生
が何を伝えたいかということが書いて
あるので読んでほしいと思ってい



山下学長と受賞者との懇談会

す。ところで、曾我さんは専門科目では一方通行の授業が多い傾向にあると言っていましたね。

曾我 そうですね。専門科目になるにつれて、難しくなっていくので。ノートと黒板の行き来だけで終わってしまっているのかなと感じます。僕も専門科目の単位を落として、次の年度に受けましたが、授業内容が全く同じでした。やはり発言する場がないと、授業に緊張感も無いから、寝てしまうことにつながります。

杉井 授業に対する緊張感は興味や好奇心からも生まれますよね。

知の活用が自分らしさに

学長 興味や考え方は自分でつくることなのです。先生はそれを豊かにするために助けてくれるのです。中部大学ではまず最先端に触れること、感性で面白いと思うかどうか、自分の中に燃えるものがあるかどうか重要なんです。今日の最先端は明日の最先端ではありません。今日の最先端は先生が教えてくれますが、明日の最先端は自分で学ばなければなりません。教えてもらうのを期待するのではなく、自分で取りに行く習慣を付けるのが重要だと思います。皆さんの作品を見ると、それができています。自分に何が足りないかが分かっているから俳句を詠み、漫画が描けるわけです。十分満足していれば作りませんよ。不足している、飢えていると感じるからいろいろな作品ができるわけです。自分がいかに飢餓の状態になっているか、知的に空腹な状態をどうつくるかが大切です。自分はこんなことがやりたいという目的や夢を持ったなら何が必要かが分かってきます。大学の4年間は、何をやりたいかを探す旅じゃないかな。

杉井 今、学長が言われたようなことを、私たち教員も考えています。現象から先に見せて、それから「なぜなんだろう」と考えてもらうという方法が、最近の授業では増えてきたようです。

これは好奇心につながるのではないのでしょうか。

学長 知に対する憧れと同時に、知的な喜びを皆さんは体験しましたね。未知に挑戦することで自分を豊かにしているのです。

各務 きっかけは本当に重要だと思います。何かを本気で勉強したいとか、知りたいと思うときは、最初に知識がなければ疑問は湧かないと思います。例えばお金が欲しいとか、そういうのをきっかけにいろいろな知識を得て、そこからもっと知りたいこととか、自分が何に興味を持っているかが分かると思います。

学長 次は得た知識をどう活用するかです。個別の知識はインターネットなどでいくらでもあります。広辞苑に載っている22万語は、個別の知です。あれを22万1語に増やしたところで、大勢にはあまり関係ありません。そうではなくて、あの知をどれだけ加工して自分が活用していくかです。そのためにはいろいろな知を統合しなければいけません。知を使って何かを作っていくことが、重要ではないのでしょうか。

各務 体験は重要だと思うのですが、自分の頭の中で体系化することも重要だと思います。

学長 隣の人とは違う体系化。それだからこういう作品が出てくるんです。別の知の体系を持っているから。同じ体系化だったら、同じパターンしか出てこない。創作活動というのは、まさに知の組み合わせ、固有の組み合わせで一つ一つ全部違います。知は個性的に活用すればいいのです。そうでないと豊かさが出てこないと思います。知識の貯めこみは無限です。一生かかっ

ても貯めこむことはできないと思います。あるものの中から、どう使っていくの方が生産的だと私は思います。100点満点をパーフェクトだと思うからいけないのです。まだまだ全部ではなく一部分なんです。そういう考えがあるから、こういう作品が出来てくるわけです。その気持ちを大事にしましょう。

各務 きっかけというのがありました。趣味を一流にして生きていける人もいますが、きっかけがあっても動けない人もいます。

学長 私の親父は明治生まれの実業家で、羽振りは良かったけど、私は親父のようにはなりたくないと思いました。だから私は生物を勉強しました。きっかけはいろいろあると思います。私には子どもが3人いて、うち1人が息子です。その息子が中学1年の時だったか、風呂に一緒に入っていた時に「お前、将来何になるんだ」と聞いたから、私と同じことを言ったんです。「お父さんのようにはならない」って(笑)。だけど私はそれで良かったと思っているんです。そこまで言ったら、自分の責任です。親に頼ることはないんです。その時点で自立なんです。きっかけは人からもらうよりも、自分でつくるべきだと私は思います。人に反発してもいいし、いろいろなやり方があります。十人十色でいいではありませんか。

杉井 学生の皆さんの学ぶことへの考え方や思いを聞き、また山下学長の考えも伺うことができました。私たち教職員は、これからも学生の皆さんと一緒に『魅力ある授業』を目指していきたいと思っています。ありがとうございました。



受賞作品集を制作しました。
ご希望の方は、大学教育研究センターまで。
作品は Web でも公開しています。
**中部大学発『魅力ある授業づくり』
作品コンクール 受賞作品集**
http://www2.chubu.ac.jp/digibook/contest_opus/

